編集後記

▼牧裕子さんの「生きる喜びを伝え合う保育園」は、保育のひとつの理想を体現しているようです。卒園児で中学時代不登校だった彩ちゃんが、ボランティアで園の手伝いをしながらバイクの免許を四回目の挑戦で取る話、大学生になった卒園児が保育士志望の女友達を連れて訪問する話など興味が尽きません。

▼植木信一さんの論考は、「保育に欠ける児童」を保護する責任を自治体から民間の営利企業へ移す動きやその狙いを解明します。編集部の「保育の環境に急激な変化」も併せて読んでいただきたい。

▼井上薫さんの「たんぽぽ保育園の実践」は、認可外保育施設の子育てを「自閉的傾向」の子どもの成長を通して、適切な設備と仲間が子どもたちには絶対に必要と示唆します。

▼神成礼子さんは、保育園に保健職（看護師・保健師）が必要のわけを、運動や組織を紹介しながら説得に努めています。

▼上地元子さんの実践報告は、二才児の遊びの意義をいきいきと見せます。このような実践を支えている園のチームワークの良さがうかがえます。

▼ジャカルタに住む井上朝香さんから、日頃はなじみの薄い地域の幼稚園や子育て事情を報告していただきました。親や上級生（中学生・高校生）がボランティアで幼稚園の活動に参加するなど。

▼第四回県保育研究集会に参加した当研究所所員が分科会で学んだことを、量・質ともにゆたかに報告しています。

▼「規制改革推進三カ年計画」（〇二年三月二九日閣議決定）の保育分野についての部分を「資料室」に載せました。読みにくいかも知れませんが、ご活用ください。

▼福島富さんの論考は、当研究所の本年度総会の記念講演がもとになっています。学校統廃合が財政効率を主になされた結果が、「学校の荒れ」の一因になったと見られます。全県下で直面している市町村合併のこれからに多くの示唆を与えます。

▼山岸堅磐さんの「長野県知事選後の状況とこれからの課題」は、山岸さん自身が「県治水・利水等検討委員会」に公募し、採用された経験の下の論考で説得的です。「調査研究し提案する住民運動へ」のテーマは、わが研究所の所期の課題でもあります（本号八頁の八木氏論考参照）。

▼川上真紀子さんは、県営三面発電所建設のため二年前に、ダムの水面下に没した奥三面遺跡群を保存、公開、研究する博物館を県立でつくろうという運動を紹介しています。その遺跡群は全国に発信できる考古、民俗、歴史学等の宝庫です。

▼小野和子さんは、七町歩の稲作をしても夫は酒造業に、本人はスーパーのパートとして勤めなければならない現実をリアルに描きます。三人の子育ての体験とからませながらまとめた秀作です。

▼本誌初代編集長、若月又次郎さんが十二月三日、永眠。ご冥福を祈ります。（吉田）

にいがたの教育情報 NO. 72

2002年12月20日発行

編集・発行　にいがた県民教育研究所

発行人　長﨑　明

〒951-8116 新潟市東中通1−86 山崎ビル

電話・FAX（025）228−2924

振替口座・00640−0−12332

印刷所・中央印刷さぁびす

本誌内容の無断転載を禁じます。